

近況や業務内容、情報や知識経験を共有

「世代会」で同期と交流



友の会子ども塾に参加

同仁会では、2022年度から1年目事務職員を対象に月2回、「世代会」という名称で一堂に集まる企画を開催してきました。対象者は、2022年4月に常勤職員として入職した事務職員で、年代や職歴はさまざまです。

コロナ禍で同期の集まる機会が減少し、お互いの悩みや近況を共有し合う場がほとんどなくなりました。このような状況を危惧し、「定例で集まれる機会を」と考えて開催しています。「世代会」では、集まって話をするだけでなく、普段の業務では直面しにくい社保問題や先輩職員の活動報告など、学習会も合わ



1年目職員からは「普段学習できなかったことが学べた」「同期と合う機会ができて、不安が幾分解消できた。」などの感想も寄せられました。

事務委員会では、お互いの近況や業務内容、情報や知識経験を共有できる場があることで、同仁会職員としての成長や、気づきが醸成されることを期待し、一方的でない相互に成長できる場を提供できるよう、実施内容やいただいた意見感想を振り返り、よりよい企画を提案していきます。

（事務局）



フレイル体操教室に参加

2年目までには、無料低額診療学習会、弁護士を招いての憲法学習会、青年の集い・近畿ジャンボリーの報告会、鳳フロッグの三宅医師による水俣検診の取り組みなど、たくさん企画を行ってききました。

参加者からは「2年目だが、1年目の発表を聞いて刺激になった」「失敗や成功、嬉しかったことなど、共有できてよかった」など、いろいろな感想も寄せられました。

た」などの感想が寄せられました。また、事務委員会の企画と合わせ、1年目職員自身の入職からの振り返り発表も行いました。振り返り発表では、Zoomで配信を行い、多くの方に共有し、また職場の上席から、発表や職場での活動についてのコメントをもらうなど、1年目事務職員に留まらず、幅広い世代での交流もできるようになりました。

同じ問題に取り組む仲間や現場の奮闘や研鑽を知った

大阪民医連学術運動交流集会

2月11日に大阪民医連学術運動交流集会が、オンラインで開催されました。

メインテーマは、「命と平和の大切さを考える〜明るい未来に向けての繋がりを〜」で、182演題が報告されました。

記念講演は、元朝日新聞記者でジャーナリストの伊藤千尋氏をお招きしました。

様々な視点からテーマに切り込んでいくお話で、中央アフリカにあるコスタリカ共和国のことが印象に残りました。コスタリカでは、平和憲法が実施され、軍隊を本当になくしたことで、それにより浮いた国費を教育にあて、幼稚園から高校までの学費が無償化されたこと、選挙において2期連続での立候補が不可能であること、公務員の女性比率が46%という高い比率であることなど、驚きの連続でした。

自分の常識は、日本の国の中で醸成されたものであり、「非常識」と思っていることは、日本では考えられない」という程度のものであった」と考



えさせられ、新たな視点を得ることができた貴重な講演でした。

私が座長を務めた分科会では、看護師のスキルアップのための研修報告や、歯科の患者安全や業務改善につながる機器導

（実行委員）
社会医療法人同仁会
本部 南 琢郎

入のプロセス報告など、事務職では携わることのない、現場の奮闘や研鑽を知ることができました。「この頑張りをお患者さんや利用者さんにも見てほしい」とそう思わずにはられない発表ばかりでした。

今回もオンライン開催でしたが、恒久の平和と充実した医療介護をめざす熱量を感じることができました。1年に一度の開催ですが、次年度も多くの人が参加することを望みます。きっと新たな視点や同じ問題に取り組む仲間の存在に気づく、素晴らしい体験となるはずです。

座長賞

- ①特定保健指導実施率向上に向けて～ゼロからのスタート～
〈耳原総合病院 組織健診科〉
- ②手術室における危機的状況への取り組み
〈耳原総合病院 手術室〉
- ③認知症のAさんへのイラっとする気持ち、どう関わればいいのか？ Aさんだって辛いんです
〈耳原ヘルパーステーションともうぞ風〉
- ④若年性アルツハイマー型認知症患者の周術期の取り組みについて
〈耳原総合病院 周術期支援センター〉
- ⑤ネグレクトが疑われる方への支援
〈みみはらケアプランセンターふれあい〉
- ⑥民医連綱領の実践！地域の訪問看護事業所と、つながる、学び合う、とりくみの報告
〈耳原訪問看護ステーション〉